

みなお通信

高崎市議会議員 高橋美奈雄

<市政相談連絡先>

〒370-0041

高崎市東貝沢町2丁目32-6

TEL&FAX 027-363-2733

E-mail: minao.t@jcom.home.ne.jp

9月市議会定例会報告

平成27年第4回市議会定例会は、9月4日から28日までの25日間の会期で開かれました。本定例会では、平成26年度高崎市一般会計及び特別会計歳入歳出決算認定議案並びに水道・公共下水道事業会計決算認定議案、財産の取得について（消防ポンプ自動車（CD-1型））、平成27年度高崎市一般会計補正予算（第3号）、高崎市副市長の選任同意についてなどの議案の審議を行い、いずれも原案のとおり可決しました。

決算では、市長に平成26年度における各事業の執行状況について提案理由の説明を求め、さらに監査委員からの報告があります。また、各分野の細かな説明についてはそれぞれの委員会に付託をし、詳細な審議を行いました。

本市の財政が健全で明瞭に運営されていることを議決しました。

<平成26年度決算認定関係報告>

～議決・認定～

一般会計及び国民健康保険事業ほか8特別会計を合算した決算総額は、歳入が2,384億2,115万円、歳出が2,291億2,872万円で、前年度に比べ歳入が80億9,243万円（3.5%）の増加、歳出が63億6,001万円（2.9%）増加しました。

本市の経済は、緩やかな回復基調を示し市税収入においても市民税法人を中心に回復してきていることから、本市独自のビジネス活性化施策などによる経済対策が結実し始めたものと考えられます。

中核市として、さらに成長し発展していくことを主眼に、市民生活の安心・安全をはじめ、文化や情報などを世界に発信していく施策の推進など、『新しい高崎』の理念と基本政策の実現に向けた施策を積極的に進めたといえます。新体育館や新斎場建設、空き家緊急総合対策が図られ、農畜産物のブランド化推進、観光事業に積極的に取り組んだ各分野の事業成果と課題について詳細に審議し、決算認定しました。

★ここをチェック！ ハード事業だけでなく、ソフト面の充実が重要と考えます。市民の皆さまの声を常に聴き、的確な成果の評価を心がけています！



9月定例会

市政に対する一般質問

一般質問は、四日間にわたり二十七人の議員が行い、高橋みなおは四日目に登壇し質問しました。以下、概要を報告します。

本市の行政制度統一を
求める市民の声について

質問 平成十八年一月の合併からまもなく十年を迎えるが、市民生活に密接する制度統一に関して、住民の皆さまからさまざまな意見が寄せられている。合併調整方針において段階的な調整という行政制度が数多くあったが、どのような現状か。また、成果と課題についての見解を。

答弁 健全な市政運営を実現するため、一体感の醸成が欠かせないと考え、調整を進めてきた。現在の本市の発展が最大の効果と考えている。わずかに残っている制度統一を混乱なく終了させることが課題であるが、地域特性に配慮しながら無理のない形で統一を推進していきたい。

質問 制度統一は住民合意のもと、行政がリーダーシップを発揮することが住民福祉の向上に大きく寄与するものであると考える。

吉井地域の消防行政と多野藤岡医療事務
市町村組合との明確な方針を示す時期と考
えるが、今後の取り組みは。

答弁 吉井地域から要望があることは認識しており、消防行政の高崎市・安中市消防組合への移管については、多野藤岡広域圏を構成している他の市町村の状況を勘案しながら研究したい。また、救急医療活動を通じた密接な関係もあるので、今後の対応についても歩調を合わせたいと考えている。

質問 水道料金については、地域差が大きい料金体制の統一を図るための早期策定が望まれ、包括外部監査においても指摘をされているが、どのように受け止め、解決に向けて取り組んでいくのか。

答弁 平成二十九年まで改定はしないことになっているが、料金体系の統一を早期に図ることが望まれるという意見については真摯に受け止め、段階的統一に向け調整できるように総合的に判断したいと考えている。

若年層の定住促進を
後押しする施策について

質問 若い世代の定住人口を増加させる支援施策については、多くの自治体の共通する課題であるが、本年度の具体的進捗状況は。

答弁 雇用の場の確保と同時に子育て施設の

整備や文化活動の進行など総合的施策が必要である。さらに本市の良さを情報発信していくことが必要と考えている。

質問 若い人たちへのアプローチが大切と考
えるが、県内及び市内へ就職を希望する学生に
どの程度雇用の場が確保されているのか。

答弁 各企業の求人募集の形態から、雇用の場
の充足度を把握することは難しい状況である。

質問 新たな人の流れをつくるために、市内企
業等へのUIJターンなどの就職促進や若年
層への就職機会の創出に取り組む必要がある
と考えるが。

答弁 総合的な施策で都市の魅力や充実した
生活環境整備への支援事業を発信し、プロモ
ーション活動についても検討していきたい。

♪ 後記 ♪

九月の栃木・茨城・東北の記録的豪雨により、被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。堤防の決壊により、瞬間に住宅街や道路、田畑を飲み込んでしまった水の恐ろしさを改めて痛感した方も多かったのではないのでしょうか。

避難指示についてはさまざまな課題も残りしましたが、各地から集まったボランティアの心温まる対応は、大災害を経験したことで学んだ貴重な財産と言えるでしょう。川の氾濫はいつ身近でおこるかわかりません。運動会や文化祭など地域行事が盛んなこの季節に、もう一度災害について皆さんで話し合ってみませんか。